

坊守日記 Vol.10 2016年7月12日

早いものでお盆を迎える頃となりました。梅雨明けはしていませんが、厳しい暑さとなっています。関東では雨の少ない状況に今後一層の水不足が心配です。一方で、4月に震災に見舞われた熊本県および九州地方では、連日大雨になっています。もともと台風などで水害が多い地方ですが、地震の復興もようやく始まった中で、追い打ちをかけるような気象状況に、早く収まってほしいと願うばかりです。

大地震の発生直後より、宗門でも被災地支援の動きが始まりました。常福寺でも、義援金を送金しました。まだまだ東日本大震災の復興も続いております。教区や組単位でもボランティア団体が活動しています。今後も関係団体の支援や、被災地への支援を通して、復興の一助になるよう努めていきたいと思っています。

4月10日は、今年の永代経法要が厳修されました。



←今年のお齋・上の真ん中が筍、その右側にぺろりん

住職の法話は、4月8日の「花まつり」にちなみ、お釈迦さまと釈迦十大弟子と呼ばれるお弟子達のお話でした。私たちの身近なお釈迦さまのお弟子といえば、「釋」の文字を頭に法名を頂いている私自身や、祖父母、父母となるでしょう。先達のご苦勞を偲び、仏法の繁栄を願ってみんなでお勤めをしました。

お齋には、例年通り福岡県の筍を煮てお出ししました。福岡に住む親戚から、掘ったばかりの筍をすぐに茹でて、冷蔵便で送っていただきます。とつても柔らかくて、毎年大好評です。余った物をお持ち帰りする門徒さんもいらっしゃいます。また、昨年の報恩講でも人気を博した佐賀県のごま豆腐「ぺろりん」もお出ししました。こちら、わらび餅のようなプルンとした濃厚なごま豆腐で、東京で一般的に販売されているごま豆腐とは全く違います。

本山から出版されている「月刊 同朋」という雑誌に、「旅する郷土料理」というコーナーで全国各地の郷土料理や報恩講のお齋などが紹介されています。そういったものも活用しながら、今後も皆さんに美味しいと言って頂けるお齋作りが出来ればよいなあとと思っています。

また、3月にご門徒さんの寄贈で璽絡を新調しました。

春のお彼岸には、子供たちへの配布品として「かざぐるま」をたくさんいただきました。ご門徒の皆さんが色々な気配りをしてくださって、本当にありがたいことです。寄贈いただきました高田さまと、清水さまに御礼申し上げます。



7月9日、10日は盂蘭盆会法要が厳修されました。こちらは、新盆の方がお参りに多く来られます。2日間にわたり、参加された方もいらっしゃいました。

住職の法話は2日間とも同じ内容でしたが、「2日聞いたおかげで昨日聞き洩らしたところも今日聞くことが出来て良かった」と仰っていました。

「右耳から入って、左耳から出て行っても、また足を運んで聞いて下さればいいのすよ、私もいつもそうなんです。」と、法要が終わってお参りの方と一緒にスイカを食べながら談笑しました。

法話を聞いて、終わった後に門徒さんと一緒に座談をすることと言う事が、また次の新しい法縁を生むことに繋がるのかなと思います。住職も、「今日は正信偈の声が皆さんからよく聞こえていましたよ。」と嬉しそうでした。月1回の「正信偈の練習会」の効果も実を結んでいるようで良かったです。

門徒さんは、1人でお勤めするのは自信がないけれども、一緒に練習している門徒さん同士だと安心して声を出せるようです。また、以前は、住職のお勤めについていくのが精一杯な感じでしたが、この頃は他の方の声をよく聞き取っていらっしゃるようでした。練習会も今月からは、10月の報恩講に向けて「真四句目下」の正信偈を行っていきます。

最後に、今年も母が玄関前のプチ菜園として、茄子とトマトを育てています。間もなくしたら食べ頃の大さきになるので、昨年同様に毎日母から「茄子なっているよ！食べて食べて！ トマトももう赤いよ！」と私は拷問のように言われるでしょう。私あまり野菜が好きじゃないことはどうでもいい母です。そういえば、小さい頃に母が作ったコーヒーゼリーを「美味しい」と言ったら、しばらくの間、母は毎日コーヒーゼリーを作っていました。パンの耳を揚げて砂糖をまぶしたドーナツもそうでしたし、蒸しパンもそうでした。母親って、子供が好きと思ったらいつまでも好きと思っていますよね。私も、息子にラーメンを大量に送って、叱られたことがありましたので同じですね。「ほどほどに」ということが、人間は難しいようです。

他にも、5月に常福寺旅行会と6月に東京教区同朋大会がありました。それについては、次回にてご報告したいと思います。

合掌



お盆という事で切籠の灯籠を下げました

